

ミクロの疑惑とマクロの事実：確率論からみた拉致被害者数

北朝鮮に拉致された人数はどれくらいなのか。現在、帰国者を除くと、政府は12人を拉致被害者と認定している。一方、特定失踪者問題調査会には拉致濃厚77人を含む公開非公開あわせて470人の特定失踪者リストがある。さらにこの470人をほぼ含んで警察では現在883人を「拉致の可能性を排除できない事案に係る方々」としている。

政府が被害者認定に消極的なことについて、善意に解釈すれば、被害者と認定した失踪者が北朝鮮と無関係であったことがわかった場合のネガティブな影響を考慮しているからかもしれない。ここでは、それが安倍政権の真意であるかどうかは問わない。拉致と断定するにはほぼ絶対といえる証拠が必要であることを前提としたうえで、政府は被害者が何人いると判断すべきか、確率論の観点から検討する。

たとえば、拉致濃厚とされた 77 人が北朝鮮に拉致された確率が、それぞれ 80 パーセントだとしてみよう。政府認定には拉致された確率が 95（あるいは 99）パーセント以上でなければならないとすれば、個々の案件として見れば、77 人の失踪は拉致「疑惑」であって、拉致事件ではないということになる。しかし、失踪を個々にみれば、拉致「疑惑」に過ぎなくても、全体でみれば「合理的な疑いを超える」拉致事件が多数起こっていることを示すことができる。

[illegible]

この 77 人を除いた約 800 人の失踪者の場合、それぞれが拉致被害者である確率はずっと小さく、10 パーセントとしてみよう。個別にみれば、北朝鮮と無関係な失踪である確率が 90 パーセントで、まず北朝鮮工作員の犯行ではないと言ってよい。しかし、この場合も、約 800 人のどの失踪にも北朝鮮が関与していない確率は 0.000000000000000000000000000000000004 パーセント（小数点以下ゼロ 34 個）、拉致人数が 53 人に満たない可能性は 0.1 パーセント、すなわち 53 人以上が拉致された確率が 99.9 パーセントである（95 パーセントなら 66 人以上）。それぞれの失踪者が拉致被害者である確率が 20 パーセントであれば、99.9 パーセントの確率で被害者は 125 人以上いる。

どの失踪者が拉致被害者であるかについては、合理的な疑いが残ることは否定しない。しかし、誰かはともかく、上で示したように、拉致濃厚な失踪者とそれ以外の失踪者を合わせて、少なくとも 100 人程度が北朝鮮に拉致されたことは合理的な疑いを超える事実である。

補足：上記確率の算出方法

個々の失踪者が拉致被害者か否かは独立事象であり、その確率が一律 p の場合、被害者総数 N 人のうち拉致被害者が x 人以上である確率 $Q(x)$ と一人もいない確率 q_0 は、それぞれ

$$Q(x) = \sum_{k=0}^N \frac{N!}{k!(N-k)!} p^k (1-p)^{N-k}, \quad q_0 = (1-p)^N$$

となる。